

令和5年度 障害児・者のスポーツライフに関する調査研究

<目的>

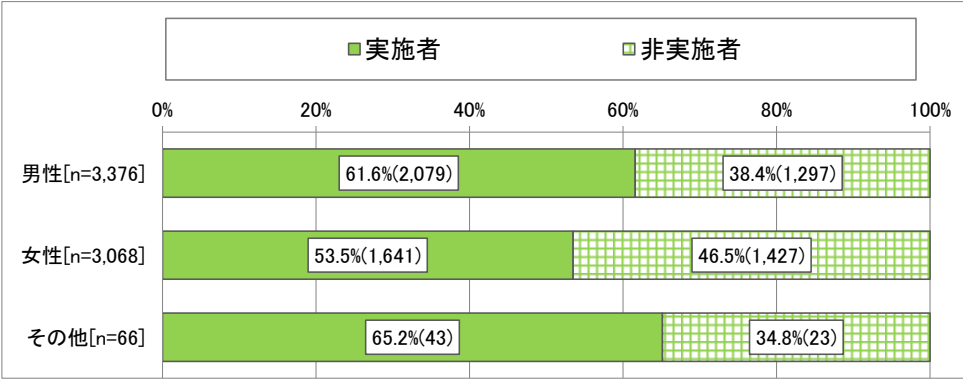
東京オリンピック・パラリンピック競技大会により、スポーツを通じた共生社会の実現に向けた機運が醸成されたが、障害のない方で障害者スポーツを体験したことのある方の割合は低く、障害のある方とない方がともにスポーツをする、ユニバーサル、インクルーシブなスポーツ環境を整備することが必要である。また、成人一般に比べて障害者のスポーツ実施状況が低調であることから、障害者特有のスポーツの実施に係る障壁の解消と、スポーツ施策の実施体制上の課題の解消を図ることも重要である。これらのことから、本事業は、障害者が生涯にわたってスポーツを実施するための基盤を整備する観点から、身近な場所でスポーツを実施できる環境の整備等を図ることを目的として実施する。

<調査概要>

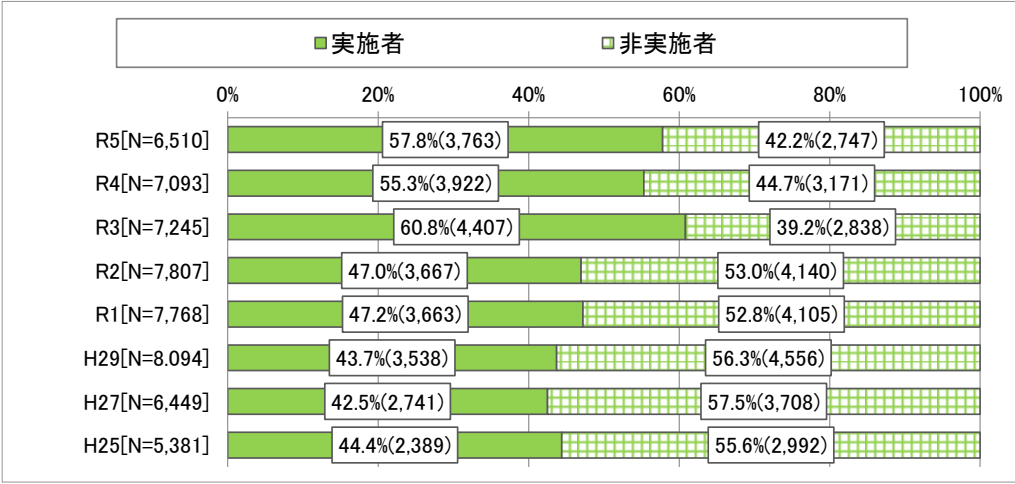
全国の障害者及び障害者を家族に持つ方々を対象として、障害に関する基本情報、運動・スポーツの実施状況（実施種目、頻度、目的等）、スポーツ実施における障壁、今後行いたいと思う運動・スポーツ、スポーツクラブや同好会・サークルへの加入状況、過去1年間のスポーツ観戦の実態、スポーツ観戦における障壁等を調査した。

2. 調査結果 ①運動・スポーツの実施率

- アンケートの結果、過去1年間に何らかの運動・スポーツを行った割合をみると、男性で61.6%、女性53.5%という結果となった。
- 令和4年度調査と比較すると、実施者の割合は55.3 %から57.8%となった。昨年度より増加し、令和3年度以降半数以上の割合を維持している。



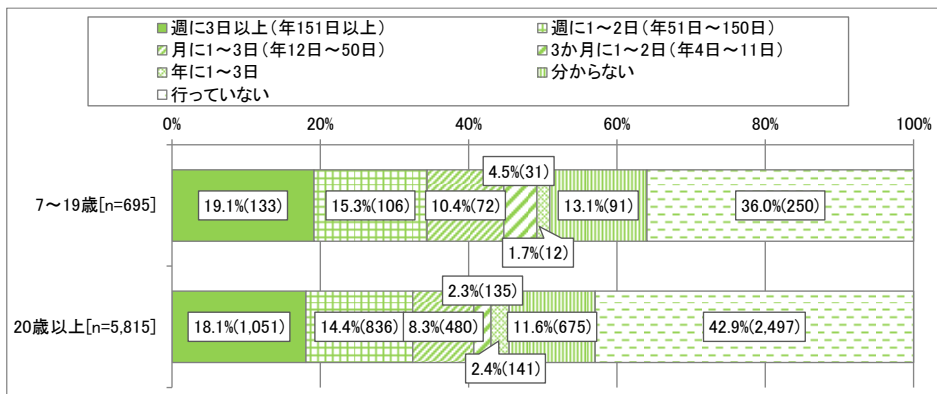
図表1 過去1年間の運動・スポーツの実施の有無
(性別)



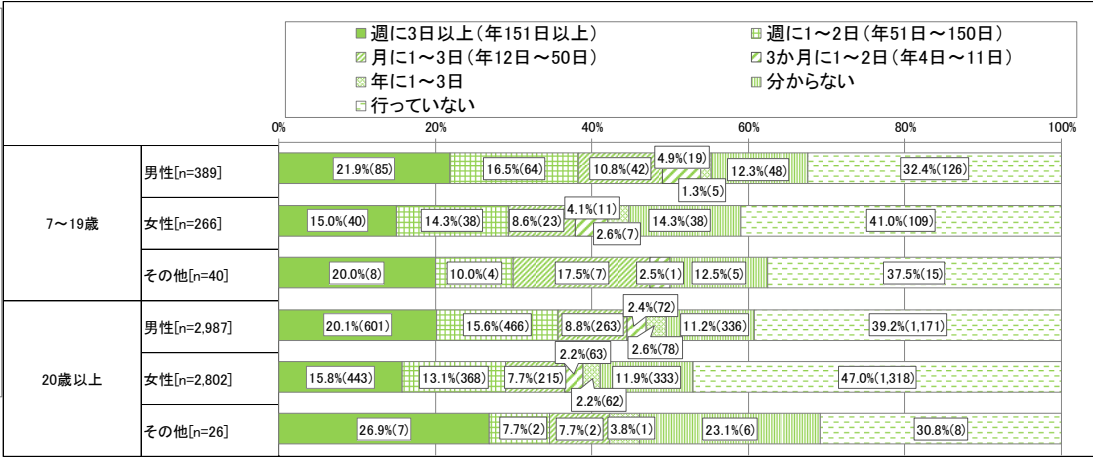
図表2 過去1年間の運動・スポーツの実施の有無
(過去との比較)

2. 調査結果 ②運動・スポーツを行った日数

- 過去1年間に運動・スポーツを行った日数を7～19歳、20歳以上別にみると、7～19歳では週1日以上の実施率は34.4%、20歳以上は32.5%となっている。前年度と比較すると7～19歳は横ばいで大きな変化はなく、20歳以上はやや増加している。
- 男女別では週1日以上行った者が7～19歳の男性では約4割、女性では約3割を占める。20歳以上では男性は35.7%、20歳以上女性は28.9%となっている。



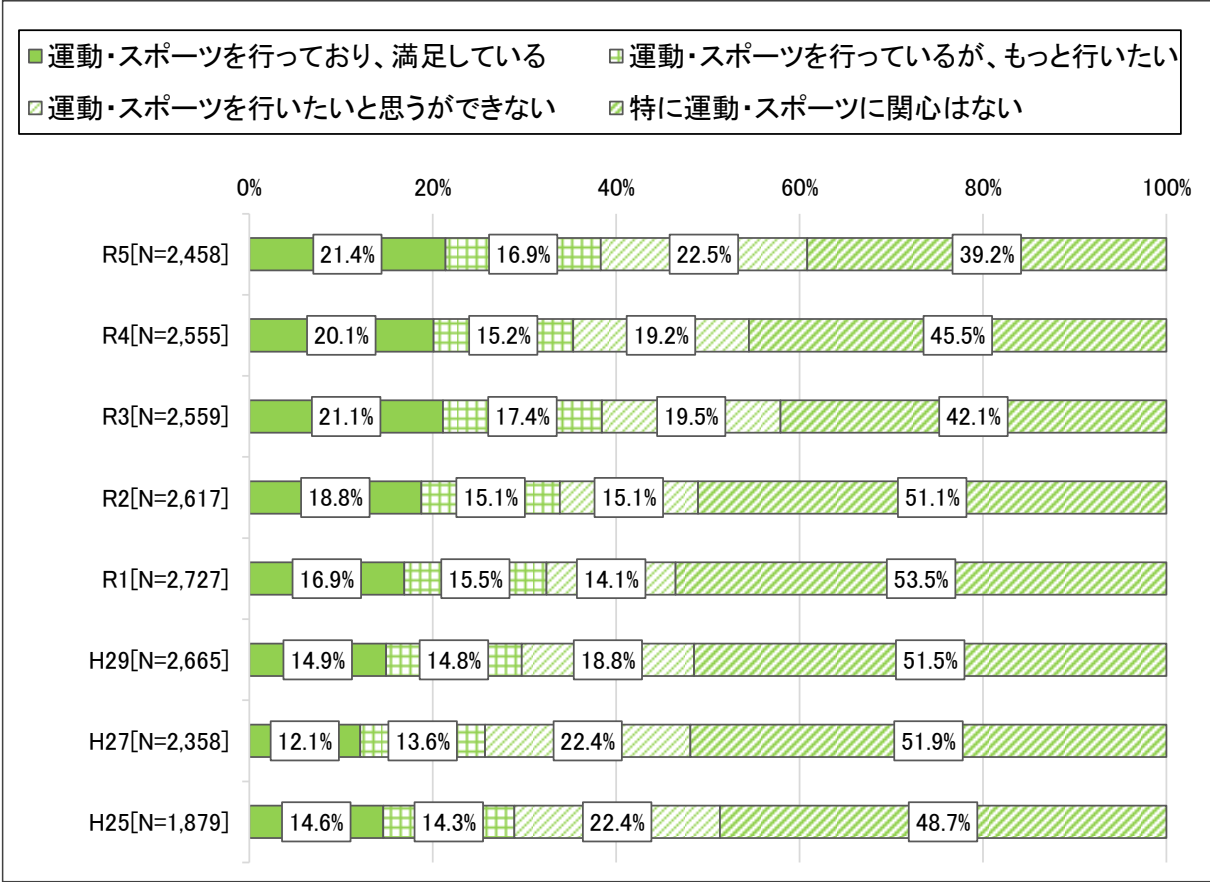
図表3 1年間に運動・スポーツを行った日数
(7～19歳／20歳以上別)



図表4 1年間に運動・スポーツを行った日数
(7～19歳・20歳以上別／性別)

2. 調査結果 ③現在の運動・スポーツへの取組について

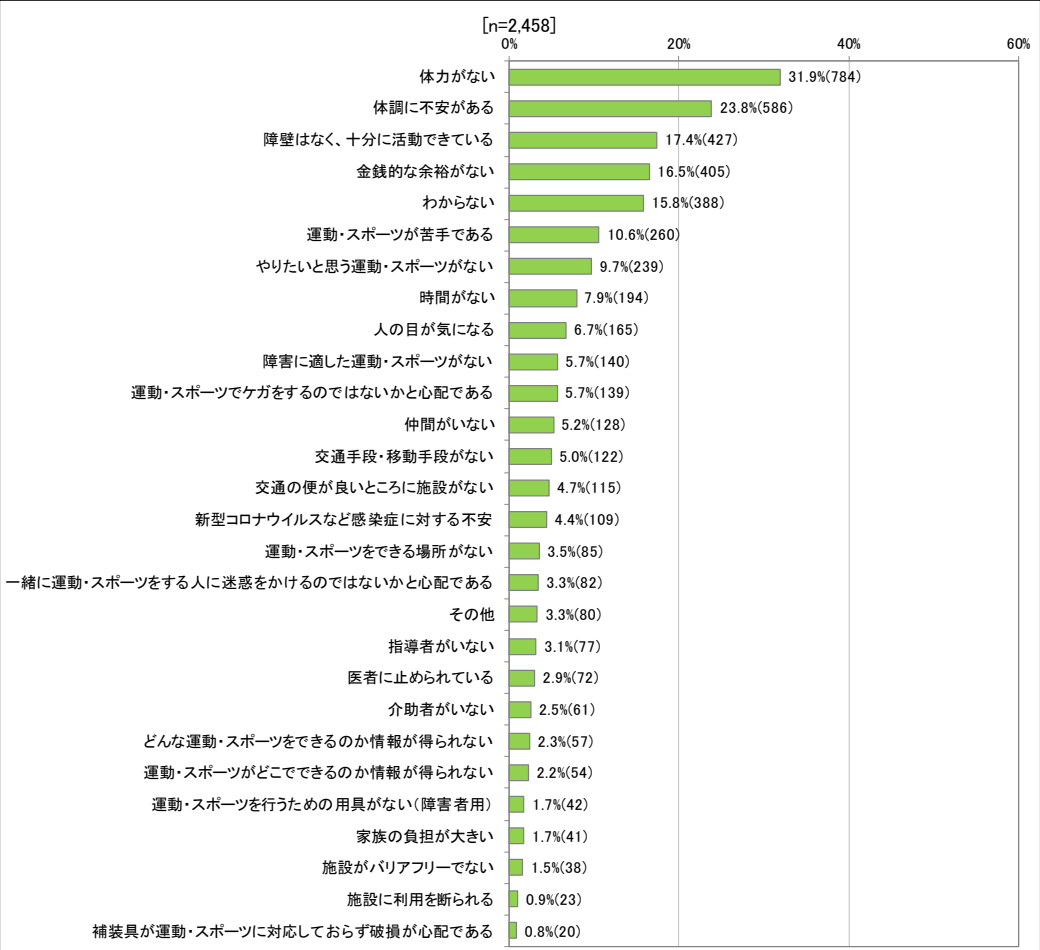
■現在の運動・スポーツへの取組については、現在の運動・スポーツへの取組については、「特に運動・スポーツに関心はない(39.2%)」の割合が最も高く、次いで「運動・スポーツを行いたいと思うができない(22.5%)」であった。「特に運動・スポーツに関心はない」割合が前年度の45.5%から39.2%となり、無関心層の減少がみられた。



図表5 現在の運動・スポーツへの取組について

2. 調査結果 ④運動・スポーツの実施の障壁

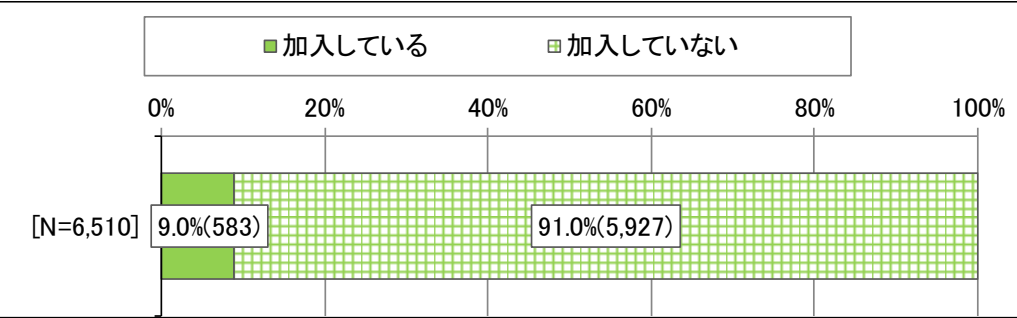
■運動・スポーツの実施において障壁となっているものについてみると、「体力がない(31.9%)」がトップとなっており、「体調に不安がある(23.8%)」「障壁はなく、十分に活動できている(17.4%)」と続いている。



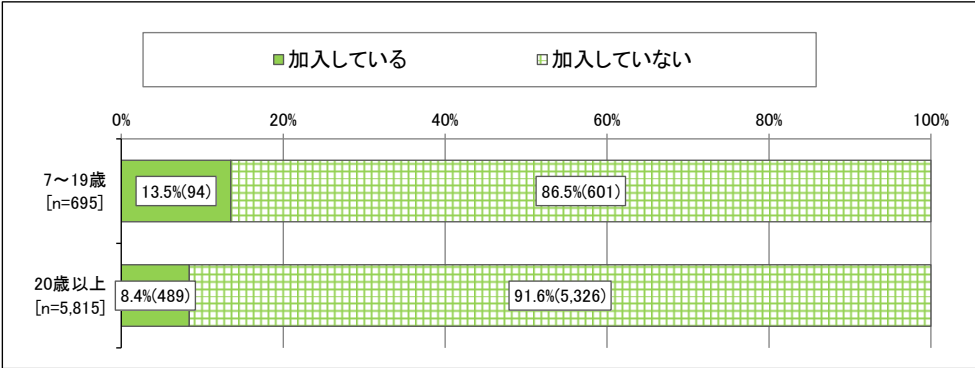
図表6 運動・スポーツ実施の障壁

2. 調査結果 ⑤スポーツクラブや同好会・サークルへの加入状況

- スポーツクラブや同好会・サークルへの加入状況では、全体の9.0%が「加入している」と回答している。
- 7～19歳、20歳以上別でみると、7～19歳で13.5%、20歳以上で8.4%という結果となった。



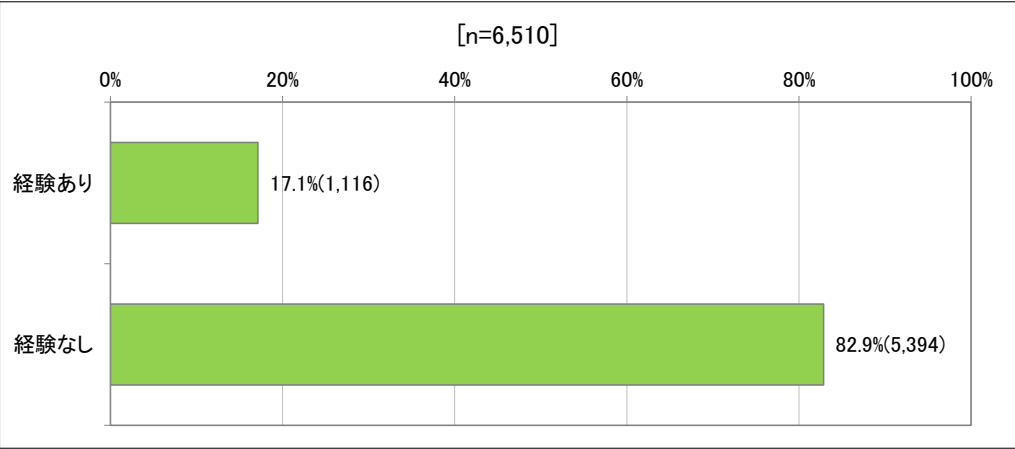
図表7 スポーツクラブや同好会・サークルへの加入状況



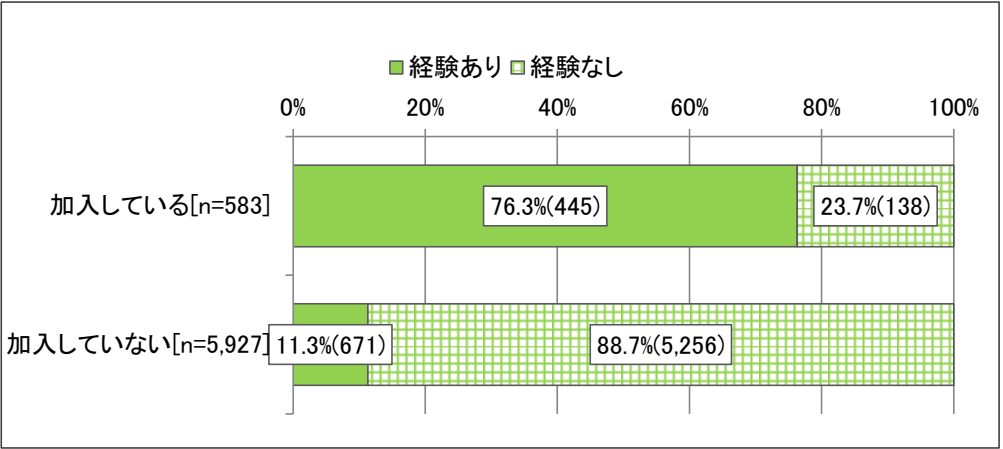
図表8 スポーツクラブや同好会・サークルへの加入状況
(7～19歳、20歳以上別)

2. 調査結果 ⑥障害のない人と一緒に行う運動・スポーツの経験

- 障害のない人と一緒に運動・スポーツを行った経験ありと回答した割合は、17.1%であった。
- スポーツ加入状況別でみると、「経験あり」と回答した人の76.3%がスポーツクラブに加入している。



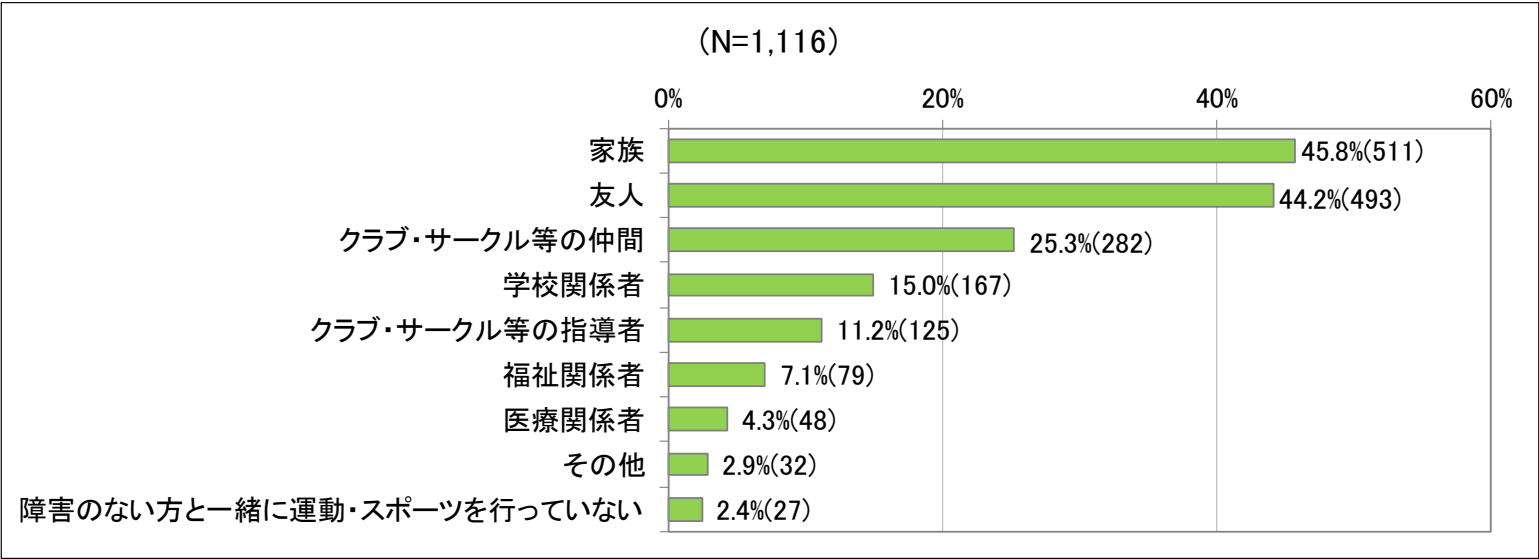
図表9 障害のない人との運動・スポーツの経験の有無



図表10 障害のない人との運動・スポーツの経験の有無
(スポーツクラブ加入状況別)

2. 調査結果 ⑦一緒に運動・スポーツをした障害のない人

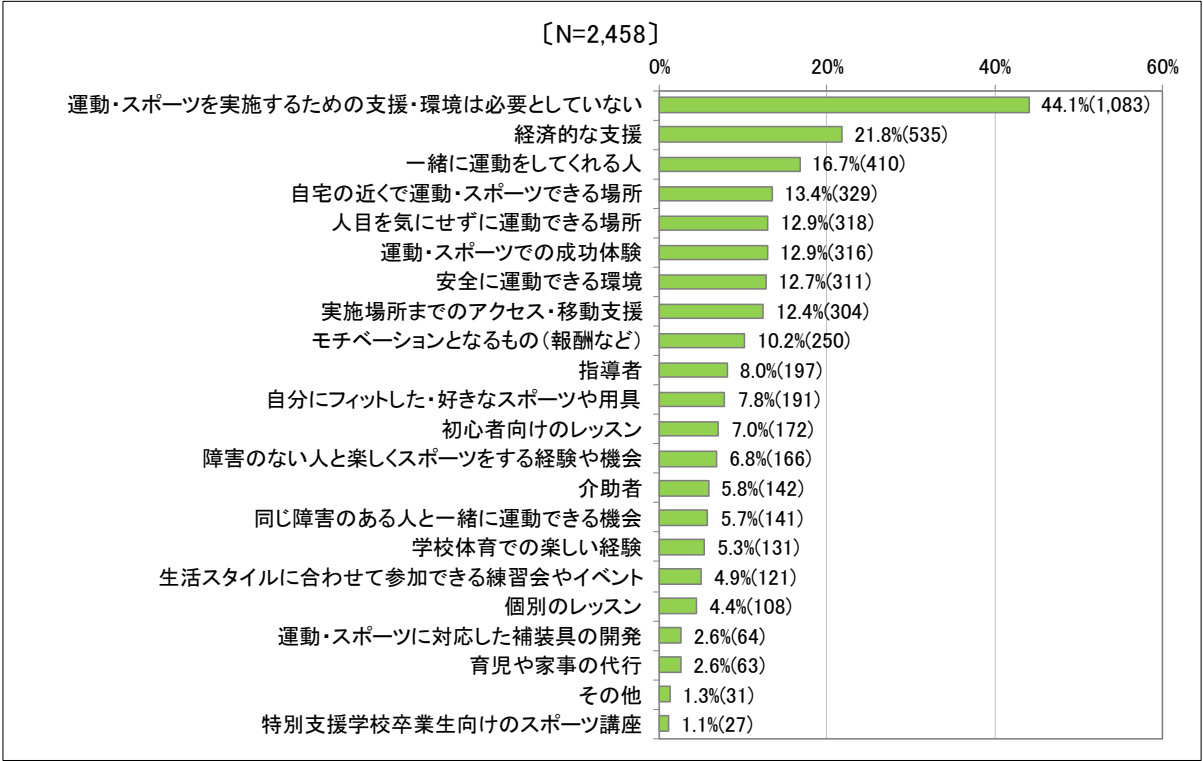
■一緒に運動・スポーツを実施した障害のない人についてみると、「家族(45.8%)」「友人(44.2%)」の割合が高い。続いて、「クラブ・サークル等の仲間」(25.3%)「学校関係者(15.0%)」となっている。



図表11 一緒に運動・スポーツをした障害のない人

2. 調査結果 ⑧運動・スポーツをするために必要な支援・環境・経験

- 運動・スポーツを実施にあたり必要とする支援・環境・経験については、支援不要とするものを除き、「経済的な支援(21.8%)」「一緒に運動をしてくれる人(16.7%)」「自宅の近くで運動・スポーツできる場所(13.4%)」と続く。
- 「一緒に運動をしてくれる人」のほか、「障害のない人と楽しくスポーツをする経験や機会」は6.8%であり、一緒に運動をしてくれる人がいれば運動・スポーツができると考える人の割合が2割強を占める。



図表12 運動・スポーツを実施することにあたって必要とする支援・環境・経験

2. 調査結果 ⑨その他

その他の主な調査結果

過去1年間に実施した運動・スポーツの上位種目は、「ウォーキング」「散歩（ぶらぶら歩き）」

・過去1年間に運動・スポーツを実施した人が行った種目は、令和4年度と同様に全体で「ウォーキング」「散歩（ぶらぶら歩き）」の割合が高い。

運動・スポーツを始めたきっかけは「家族に奨められた」「医師に奨められた」

・障害発生後に運動・スポーツを始めたきっかけは、「特に理由はない・なんとなく」が4割強を占め、次いで「医師に奨められた」「家族に奨められた」の順に割合が高い。

運動・スポーツを行う主な目的は、「健康の維持・増進のため」

・運動・スポーツを実施する主な目的については、「健康の維持・増進のため」が最も多く、次いで「気分転換・ストレス解消のため」の割合が高い。

運動・スポーツをやってよかったことは「ストレスが解消される」

・運動・スポーツをやってよかったことは、「ストレスが解消される」「体力・身体的機能が向上した」「外出が増えた」「体を動かすこと自体が楽しい」「行動範囲が拡大した」の割合が高い。

運動・スポーツがもたらすと考えられるものは、「健康・体力の保持増進」

・運動・スポーツが何をもたらすかについては、「健康・体力の保持増進」が最も高い。